

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2297200152		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム浜松根洗(第一ユニット)		
所在地	静岡県浜松市中央区根洗町738-2		
自己評価作成日	令和6年1月27日	評価結果市町村受理日	令和6年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanistrue&amp;jirvosyoCd=2297200152-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhyou_detail_022_kanistrue&amp;jirvosyoCd=2297200152-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和6年2月15日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

介護理念の中にも「快適で穏やかな生活を支援します。」とあり、ご利用者が日々穏やかに笑顔でお過ごしいただけるよう支援しています。可能な限り自立に向けて、個々の力を維持・発揮できるように、できる事の継続に努めています。また、勤続年数10年以上の職員が半分ほど在籍し、認知症の症状に対し柔軟に対応がなされ、ご利用者の生き生きした表情を引き出すことやご利用者が望む生活の実現に向けて取り組んでいます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

第一ユニット(1階)、第二ユニット(2階)ともに平均年齢が90歳に達しようという状況にも関わらず、平均介護度が2にも満たず、壮健な利用者が笑顔で暮らす事業所です。敬老会、納涼祭、流しそうめん、さつま芋の収穫といった時節行事が毎月企画され、お好み焼きパーティー、スイーツバイキング、おはぎ作りなどで「食」の楽しみがあるほか、調理参加では「まだやれる」という有用感を醸成することにも余念がありません。運動会でははっちゃけた姿、絵手紙教室での真剣な横顔、恵方巻を職員と協同で巻く様子は毎月「うなぎのぼり(利用者個別発行)」で家族に届けられ、アンケートには職員への感謝の言葉が溢れるように踊っています

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員に浸透しているまでには至っていないと感じるが管理者やユニットリーダーより、現場で実践しながら伝達し、理念に沿った支援の実践に努めている。	職員の入れ代わりが多く、現在派遣社員もいることから、理念に基づく個人目標の位置づけのほか、所内研修を通じて理念をかみ砕いて説明しています。浸透は芳しくないとしていますが、家族アンケートからは十二分な実践が覗えます	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナクラスターやインフルエンザなどの感染により日常的な交流機会は設けられていないが、現在行なっている地域への事業所通信発行などによる情報提供を基に今後、交流のタイミングを計っていきたい。	「めいちゃん」と命名した通信を春夏秋冬の年4回、自治会に向けて発行しています。所内用の新聞などを地域へも配る例はありますが、「地域に向けて」単独で制作することは評価に値しますし、事業所が「地域とともにある」ことを大切にしていることが受け止められます	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けて広報を発行し、季節ごとの活動や支援の様子を伝えている。認知症の方の暮らしの様子を発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍では書面開催にて活動の様子をご報告させていただいた。再開時には、地域の状況の情報もいただきながら、情報交換やご意見を伺っています。	自治会長や民生委員といった地域代表とともに行政、家族もメンバーとなり、隔月開催に至っています。進行が円滑なのか、はたまた参加者が親身なのか、理由は定かではないものの、議事録には忌憚ない進言と愛情ある意見が挙がっています	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に運営推進会議を通じて、活動やサービスについてお伝えしている。	地域包括支援センターの職員には運営推進会議に毎回足を運んでもらえ、貴重な助言があり、助けられています。事業所の取組における優良点への評価や、令和6年1月から区名が変更になるにあたっての変更点についての情報も入れてくださっています	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待や身体拘束について、3か月に一度研修を行い理解を深めている。玄関に施錠をすることでご利用者様に与える心理を理解し、開錠している。	法人が敷いたチェックシートを定着させ、虐待や拘束に係る研修を実施しており、周知出来る機会を持っています。またチェックシートを通じて現場の悩みや課題を収受し、虐待防止・身体拘束廃止委員会にて解決に向けた助言や取組に及んでいます	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修や、虐待や不適切なケアが行われていないかチェックシートを用い、自らの行動の振り返りや不適切なケアではないかとの疑問や意見を抽出し認識の統一を図っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の研修の中で学習している。実際に活用されているご利用者様もいらっしゃる。ご利用者の中で必要と思われる方がいらっしゃれば制度をご紹介していきたいと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結等の際は、時間をかけて説明を行い、随所で疑問点を尋ね、納得していただくうえで締結を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者からは日常生活の中で発せられる中から実践できることを取り入れたり、ご家族からはケアプラン説明時に意見や要望を収集するように努めている。	「入浴ができていいのか知りたい」との家族意見には、早々に通信に入浴カレンダーのコーナーを設けており、着手が速やかです。その成果として「職員が利用者や家族のことをよく知ろうと努めてくださる」といった受容の姿勢を称える声が家族から挙がっています	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議にて意見や提案をする機会を設け、環境整備や働きやすい職場環境作りを目指している。	面談や研修、会議で意見收受しています。また職員の10年勤続の祝いでは、紅白のちり紙花をバックに利用者が本人を真ん中にサークルをつくり、花束の贈呈をおこなう様子が写真に収められていて、ワンチームなことが「働きがい」になっていることが感じられます	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務を見直したり、意欲をもって積極的に業務が遂行できるよう働きかけしている。希望する勤務形態となるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の研修においては、時間の確保が可能であればできる限り受ける機会を設け、中途採用者には、法人本部の教育研修課による研修を受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨今の感染状況を鑑み同業者と交流する機会を控えている。相互訪問の機会を確保し、サービスの質の向上に努めたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期段階では収集した情報をもとに、本人の言葉に耳を傾け、安全面にも配慮しながら安心して生活していただけるよう関わりを多く持つようになっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の見学の段階から、ご本人・ご家族がどのような事にお困りなのか傾聴し、話しやすい相手となるよう雰囲気にも気を配っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期段階では環境の変化への適応を優先し、安全面や他利用者様との関りへのサポートなどその方のリズムを把握しながら居心地のよい生活の場所となるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が有する力を生かし、役割を担いながら共同して生活できるよう常に模索し支援にあたっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族がこんな生活をしていたとの話しから可能な限りご利用者の今までの生活を実現・継続できるよう家族と話し合いながら支援の方向を決定するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により外部との関係が途切れつつあるが、今までの馴染みの理髪店へパンチパーマをかけに行くことができるよう家族とも調整を図りながら実践した。	3年間のコロナ禍では、なかなか外部の人とのふれあいは難しく、かろうじて家族の面会をズームなどで継続させてきました。浜松市の補助金交付を受け、家族の面会ブースを設けたことは優れた取組として、事業所の利用者や家族への親身な想いを再確認できます	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の性格や認知面などを考慮し、座席もご利用者同士が良い関係性を築けるよう配慮している。テーブルごとに会話が弾み、賑やかな時間を提供する事ができている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご逝去された際には、葬儀へと参列させていただき施設の様子やご利用者と共に過ごした日々を振り返りながら家族の気持ちに寄り添うように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃より発するお言葉の中や仕草から希望や意向の把握に努めたり、直接ご本人にどのような暮らしがいいか、困っていることはないかうかがっている。	ケア日報には利用者の発語も記録され、よく見て聴いていることが確認できます。また納涼祭では「回想にも叶うのでは?」と思えるような光景が拡がり、薔薇や朝顔が描かれた浴衣を身にまとい、少女のような顔になっている利用者の姿が活動報告に収まっています	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やサービス事業所より情報の提供や、会話の中から生活の様子や馴染みの事を引き出し、生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	認知面や身体機能の把握に努め、得意なこと・好きな事に着目し、有する力を継続できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現状の暮らしぶりや過ごし方・活動の様子などから都度見直しや方法を検討し、穏やかなお気持ちでお過ごしいただけるよう介護計画に反映させている。	1表の意向を踏まえた課題分析には、本人と家族の意向が話し言葉で記載されていて、「寄り添い」を感じます。また4表日課計画表(入居系)を通じて、個別に提供されるサービスも確認してもらい、家族には具体的な援助とその方法について説明しています	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア実践の様子や、日頃の様子を職員間で共有し変化や反応に応じて見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	気づきを大切に、新たなニーズに対してご家族とも相談しながら支援に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ等感染防止の観点から、外部との接触を控えており、地域資源の活用が出来ていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、その方の状態に合わせた選択をしていただきご家族・ご本人の医療に関する意向を踏まえ、医療の方針を決定している。必要に応じて密に双方と連絡を取り健康管理に努めている。	月2回の訪問診療と月1回の往診のどちらかを選んでもらっており、全員が協力医に変更しています。但し、眼科といった専門医は家族の通院介助です。家族に毎月届ける通信には「健康面の様子」とのコーナーを設け、医療情報を共有を図っています	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週3回の看護師による健康管理を行い、日常的な処置や助言を受け、必要に応じて医師へと報告し指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には安心して医療を受けられるよう早期に情報を提供し、退院時には状態の情報交換を行い、早期に受け入れを可能にできるよう柔軟に対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居前の契約時にも、重度化や終末期について詳しくご説明をさせていただき、比較的早期の段階からご家族に意向を確認しながら方針を打ち出している。	協力医のほかに訪問看護を活用していて、週3日の訪問があります。重度化にあたっては病院の療養型か特別養護老人ホームを検討してもらっており、そういった選択肢や手順などは予め家族に説明をおこない、合意しています	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時の対応を研修に取り入れ周知を図っている。2024年より、全職員の救命救急講習の受講を予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練や防災研修の中で避難方法の周知・確認を行っている。地域との関係や協力体制は、希薄な状態が続いている為、関係の構築に努めてまいります。	年2回の法定訓練は欠かさず実施しています。また運営推進会議では普段から「この前の線状降水帯のときには金指街道の墓苑前の道が冠水して大変でしたね」と、地域の災害に係る話題がでており、事業所は情報に事欠きません	「労作ボランティア」で高校生が来訪くださっています。可能であれば当日訓練をおこなって外部者からの感想や意見をもらうことで共同の実績になることを期待します

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	基本的には敬語を用い、尊厳を持った関りや言葉かけを用いるように努めている。時には、その場に合った親しみを込めた言葉を用いることもある。	家族アンケートには「忙しい中でも温かく対応くださる」「家族の不安や戸惑いに共感しつつ、よりよい対応を考えてくださる」といった敬意と尊重の伴う対応が確認できますし、またケア日報が敬語で記録されていることも実践の確かさが伝わります	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で会話や表情・仕草からご本人の気持をくみ取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご自身のペースに合わせるように努め、その日の気分に合わせてさりげなく見守ったりしている。自己決定が難しい方には、その方に合わせた活動へとお誘いしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自身で衣類など選択できる方には、その日の気分に合わせて選んでいただいている。身だしなみも難しい方には必要に応じてお手伝いしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常の中で発した言葉から、食事レク・行事へと繋げ、楽しみとなるように努めている。また、季節に合わせた食事レクを取り入れ、季節を感じていただけるよう支援している。	料理上手、アイデア満載の職員ばかりなことは、法人のレシピコンテスト(287か所中40施設が参加)で事務職員が見事第一位に輝いたことでも証明されています。食事レクでは目の輝きが格段に違うことから、「また頑張ろう」と、職員の励みに実っています	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分・栄養状態を日常的に管理し、健康状態のバロメーターとしている。水分においては、一日1500ccを摂取していただけるよう努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のケアは実践がなされていないが、訪問歯科と連携を図り、個々の口腔状態の把握や助言・指示を受け必要に応じて支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の状況により、自立を継続し、トイレでの排泄がなされるよう支援している。トイレ間隔にも目を向け、長時間排泄がない状態になるか把握にも努めている。	排泄パターンを把握した声かけで失禁を減らしています。必要に応じて「トイレには手引き歩行で」として、座面に座る、立ち上がりもリハビリの機会となっていて、自立維持と促進が図られ、退院から戻ったときオムツでも、日をおかず外すことが出来ています	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	独自の自立支援ケアの中で一日1500ccの水分摂取に努め、便秘を抑制し追加下剤の服用も減少している。また散歩やリハビリ体操へとお誘いし運動も取り入れ、便秘予防に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	タイミングに合わせた入浴は困難であるが、ご本人の認知症症状に合わせ曜日を決めていらっしゃる方もおり、安心へと繋げている。	定石である冬至のゆず風呂のほか、お楽しみ風呂のメニューが豊富で、牛乳、ハーブ、さくら、よもぎ、大根とチャレンジが止まりません。週2日入浴を目安として同性介助の希望にもシフト調整を図り、気持ちのよい入浴となるよう努めています	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その時々体調に気を配りながら、休息を促したり今までの生活習慣を鑑みながら希望に沿って気持ちよく眠れるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	その方の服薬内容や効果について理解を深め、内服薬変更時には情報を共有し、症状の変化や異変がないか注意深く観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の趣味や好きなことに着目し充実した時間を過ごしていただけるよう努め、役割を担い生活の中でのやりがいへと繋げられるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により、積極的な外出支援は控えることが多くなってしまったがご家族の結婚式や葬儀などの参列には可能な限り出かけられるよう配慮させていただいた。	桜散策やいちご狩り等季節を感じる外出が励行されています。5類移行を受け、早々にも万葉の森へ散策に出かけており、新緑の緑に包まれて利用者の表情にも解放感が浮かんだことを写真で視認しました。また個別で冠婚葬祭に出掛ける利用者も少なくありません	



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知症症状に伴う混乱や管理が困難なことから、ご利用者が自ら所持し、金銭を用いる場面はなされていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族や親せきの方などへお手紙を書かれたり、ご家族からのお手紙を速やかにお渡しするなど活発にやり取りをされているご利用者様もいらっしゃいます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物などは、ご利用者様の作品を掲示したり、季節にあわせた掲示物を一緒に制作し季節感を取り入れる工夫を行っている。音や温度などにも配慮し、必要に応じてひざ掛けなどを提供している。	共用空間にはちぎり絵をはじめクラフト作品が連なり、時節を表わす掲示物は職員も加わった共同作品です。制作作業は単なるレクリエーションではなく、利用者の認知症の進行も確認できる機会として、楽しさに実益も兼ねられています	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の認知面や性格などを考慮し、座席等にも配慮し、会話が弾まれたり、一人を好む方には無理強いせず、ご本人の居心地の良い場所へとお誘いしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、ご本人のなじみ親しんだものをお持ち込みいただくように依頼させていただいている。清潔な空間を維持できるようこまめに掃除を行っている。	カーテンは必需品として家族に用意してもらっていますが、その他の生活備品は予め整備されています。一方で在宅生活の延長戦上にあることにも留意し、「馴染みのものを持ち込んでください」と声をかけ、化粧台や姿見が置かれている居室もあります	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境面においては、掲示物においてもご利用者の目線で分かりやすい表示や、異食や転倒事故が起こることがないよう環境作りに努めている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2297200152		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム浜松根洗		
所在地	静岡県浜松市中央区根洗町738-2		
自己評価作成日	令和6年1月27日	評価結果市町村受理日	令和6年3月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_022_kanistrue&amp;jirvosyoCd=2297200152-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaisokensaku.mhlw.go.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_022_kanistrue&amp;jirvosyoCd=2297200152-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	株式会社第三者評価機構 静岡評価調査室
所在地	静岡市葵区材木町8番地1 柴山ビル1F-A
訪問調査日	令和6年2月15日

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

介護理念の中にも「快適で穏やかな生活を支援します。」とあり、ご利用者が日々穏やかに笑顔でお過ごしいただけるよう支援しています。可能な限り自立に向けて、個々の力を維持・発揮できるように、できる事の継続に努めています。また、勤続年数10年以上の職員が半分ほど在籍し、認知症の症状に対し柔軟に対応がなされ、ご利用者の生き生きした表情を引き出すことやご利用者が望む生活の実現に向けて取り組んでいます。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

第一ユニット(1階)、第二ユニット(2階)ともに平均年齢が90歳に達しようという状況にも関わらず、平均介護度が2にも満たず、壮健な利用者が笑顔で暮らす事業所です。敬老会、納涼祭、流しそうめん、さつま芋の収穫といった時節行事が毎月企画され、お好み焼きパーティー、スイーツバイキング、おはぎ作りなどで「食」の楽しみがあるほか、調理参加では「まだやれる」という有用感を醸成することにも余念がありません。運動会でははっちゃけた姿、絵手紙教室での真剣な横顔、恵方巻を職員と協同で巻く様子は毎月「うなぎのぼり(利用者個別発行)」で家族に届けられ、アンケートには職員への感謝の言葉が溢れるように踊っています

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

### 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員に浸透しているまでには至っていないと感じるが管理者やユニットリーダーより、現場で実践しながら伝達し、理念に沿った支援の実践に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	コロナクラスターやインフルエンザなどの感染により日常的な交流機会は設けられていないが、現在行なっている地域への事業所通信発行などによる情報提供を基に今後、交流のタイミングを計っていきたい。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に向けて広報を発行し、季節ごとの活動や支援の様子を伝えている。認知症の方の暮らしの様子を発信しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍では書面開催にて活動の様子をご報告させていただいた。再開時には、地域の状況の情報もいただきながら、情報交換やご意見を伺っています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に運営推進会議を通じて、活動やサービスについてお伝えしている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待や身体拘束について、3か月に一度研修を行い理解を深めている。玄関に施錠をすることでご利用者様に与える心理を理解し、開錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修や、虐待や不適切なケアが行われていないかチェックシートを用い、自らの行動の振り返りや不適切なケアではないかとの疑問や意見を抽出し認識の統一を図っている。		

### 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年間の研修の中で学習している。実際に活用されているご利用者様もいらっしゃる。ご利用者の中で必要と思われる方がいらっしゃれば制度をご紹介していきたいと思ひます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時には、時間をかけて説明を行い、随所で疑問点を尋ね、納得していただいたうえで締結を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者からは日常生活の中で発せられる中から実践できることを取り入れたり、ご家族からはケアプラン説明時に意見や要望を収集するように努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の会議にて意見や提案をする機会を設け、環境整備や働きやすい職場環境作りを目指している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務を見直したり、意欲をもって積極的に業務が遂行できるよう働きかけている。希望する勤務形態となるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内の研修においては、時間の確保が可能であればできる限り受ける機会を設け、中途採用者には、法人本部の教育研修課による研修を受講している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨今の感染状況を鑑み同業者と交流する機会を控えている。相互訪問の機会を確保し、サービスの質の向上に努めたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族様からの情報やアセスメントを用い、ご本人様の基本的な情報を知るとともに、それを基にご本人様との積極的にコミュニケーションを図り、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学やお電話での問い合わせの段階から困りごとの把握や具体的な例をあげての不安の払しょく、要望の実現に向けた取り組みを伝えている。ご入居後、10日から2週間でご様子をお伝えし、新たな要望を引き出している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメントや要望から必要なサービスを見極め、主治医や歯科医、訪問理美容など具体的なサービスを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	「暮らしを共にする者同士の」の意識が不足している。ケアする者、ケアされる者の関係になってしまっているため、家事を共に行うことから取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様を、共にご本人様を支えるチームの一員と捉え、ご本人様の現状をお伝えし、ご家族様からの提案やアイデア、生活歴からのご本人様の望む生活の実現に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お手紙やお電話での交流は一部のご利用者様は継続されている。コロナ禍から馴染みの場所や行きたい場所への外出は控えて頂いている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士の関係の把握には努めているが、関わり合いが少なく他者への関心が薄い。お互いが支えあえる関係となれるよう支援していくことが課題。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終結後、移設先にご様子をうかがうことが出来ず、つながりが切れてしまっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コミュニケーションを図り、会話の中からお本人様の想いなどを把握しスタッフ同士の情報共有に努めている。想いの表出が困難な方は、しぐさやヒントとなる言葉から推察している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご入居前の情報やご家族様からの情報で生活習慣の把握に努めている。また、ご入居後の生活についてご家族様にご報告し、自宅の頃の生活習慣のすり合わせを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりの生活パターン・能力・好きな事・お得意な事の把握に努め、家事や手作業を提供し、今現在の残存能力の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議において、ご利用者様の望む生活の実現が出来るよう話し合い検討している。モニタリングでサービスの適性や改善点の把握に努めている。また、状態の変化に応じてサービスを適宜変更している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の細やかな記録を行い、情報の共有を図っている。即対応を変更する点などは連絡帳を活用している。また、会議の場では気づきシートを活用し、情報の共有や介護計画の変更に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズの変化に臨機応変に対応できるよう、スタッフ同士言いやすい関係づくりをしている。スタッフからのアイデアは「まず、やってみる。」と柔軟な対応に取り組んでいる。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の幼稚園との交流があり、敬老の日やクリスマスにはお互いに手作りのプレゼントを届け合い暮らしに楽しみを提供している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居時にご本人様の健康状態にあった主治医の選択を促している。月2回の往診前には前回の往診日以降の情報を詳細に伝えている。また、急変にはご家族様に状態をお伝えしたうえでご意向を確認し、救急や精査の対応が出来るよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護者はご利用者様の変化や対応法について看護師に報告相談をしている。大きな変化があれば、速やかに受診が出来るよう支援できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は介護サマリーを提供し、入院中の安心感やスムーズな治療の一助となるよう努めている。可能であれば、面会による状態の把握を行い、帰ホーム後の生活の支援に備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化する前にご家族様には終末期のご意向を確認し、お看取りについて説明を行っている。主治医・介護職にはご家族様のご意向を伝え、よりよい支援が出来るよう努めている。また、ご家族様にはご意向の変更は可能である事も伝えている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの救命講習を定期的に受け、急変の可能性が大きい利用者様のユニットにAEDを配置している。また、救急依頼の手順も研修している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的にご入居者様と共に避難訓練を実施している。また、連絡網を活用し介護スタッフの安否確認と緊急的な勤務の可否を把握している。地域との協力体制は課題となっている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴は一人おひとりに合わせた声掛けや入浴時間の選択ができるよう努めている。トイレ・入浴・更衣時はプライバシーに配慮しながら介助している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者様が何を求めているのか、日々の会話や表情を観察し良好な関係を築きながら、想いを引き出せるよう努めている。自己決定できるよう、焦らないよう余裕を持って行動し、疑問形で声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様の生活パターンを把握することで生活のペースを大切に出来るよう努めている。行事がある時には、心の準備と期待感を持てるようあらかじめお伝えしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定が出来る方には服を選んで頂いたり、迷う方には介護職と共に選んで頂いている。洗顔後のクリーム塗布やメイクの習慣がある方には続けて頂いている。洗顔が難しい方には温めたタオルで拭いたり、清浄綿で目を拭くなどで整容して頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー書きを役割として頂き、話題に上がることで楽しみの一つとなっている。その方の能力に応じて、テーブル拭き・おしぼり巻き・盛り付けなどを分担して頂き、キッチンでは介護職と会話をしながら食事準備をして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の水分摂取量は健康状態に応じて個別に設定されている。摂取量が少ない方には、カルピスやゼリーなどお好みのものを提供している。栄養補助として牛乳で溶いたミロを毎日提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアはできていないが、入床前には実施している。その方の能力に合わせて、口腔ケアの声掛けや介助を行っている。月2回の訪問歯科で口腔内の清潔と状態の把握ができています。		



自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間での声掛けやご利用者様の行動から読み取りトイレに誘導している。車椅子の方でも、立位が保てる方はトイレに誘導し残存能力を活かしている。パットが丸まってしまう方には、パットを両面テープでリハビリパンツに付け、自己完結を促している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個別に水分摂取量を定め、達成できるよう声掛けをしている。体操や廊下歩行・散歩などで体を動かすことで排便に繋がるよう努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	好みの入浴時間がある利用者様は介護職員内で情報の共有をしている。断られた時にはタイミングをずらすなどの対応をしている。頑なに断られる方には足浴で気分をあげ、入浴に繋がるよう努めている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調やご希望により適宜休息をして頂いている。夜間は、介護職側の都合とならないよう、就寝時間に配慮している。室温・湿度・明るさ・音などに気をつけ安眠して頂けるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用については概ね理解できている。服薬のマニュアルはチェックタイミングが何重にもあり、二人で確認することで誤薬や内服忘れが起こらないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お一人おひとりの残存能力や生活歴から、好きな事・お得意な事・やりがいを感じられる事・楽しみとなっている事等を把握し、日々取り組んで頂くことで充実した一日となるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出来る限り散歩の時間を確保している。コロナ禍によりご家族様との外出は自粛して頂いているが、イチゴ狩りやドライブ後の公園散策などの機会を提供している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様が支払いを気にされたり、財布を探されるなどの行動は社会性を持っていらっしゃるからと理解している。ご入居の際に貴重品の持ち込みはご遠慮頂いているため、ご自分で持っていらっしゃる方はいないが、問われた時には「金庫で預かっています。」と応えている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	その方の能力に応じてお手紙を書いて頂き、ポストまで投函に行っている。電話の希望については、あらかじめご家族様との同意を得たのちにお電話をさせて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部には、ご利用者様に製作して頂いた季節の壁飾りを掲示している。トイレや風呂場は大きな文字で提示し混乱を予防し、また、各居室には自室がわかるよう表札を付け、残存能力の引き出しにも努めている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご本人様の希望や利用者様同士の相性、残存能力に応じて居場所を工夫している。気持ちの変化により、好きな場所でくつろいだり作業に取り組みられるようにもサポートしている。状態の変化により、最適な場所への移動を臨機応変に行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具や小物を持ち込んで頂き、落ち着いた雰囲気与生活して頂けるよう配慮している。行動パターンや下肢筋力に応じて家具の配置にも配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人おひとりの残存能力の把握で、どこまでの支援が必要か、どこから支援が必要か、また、完成度は求めず、お気持ちが満足されるよう努めている。		